

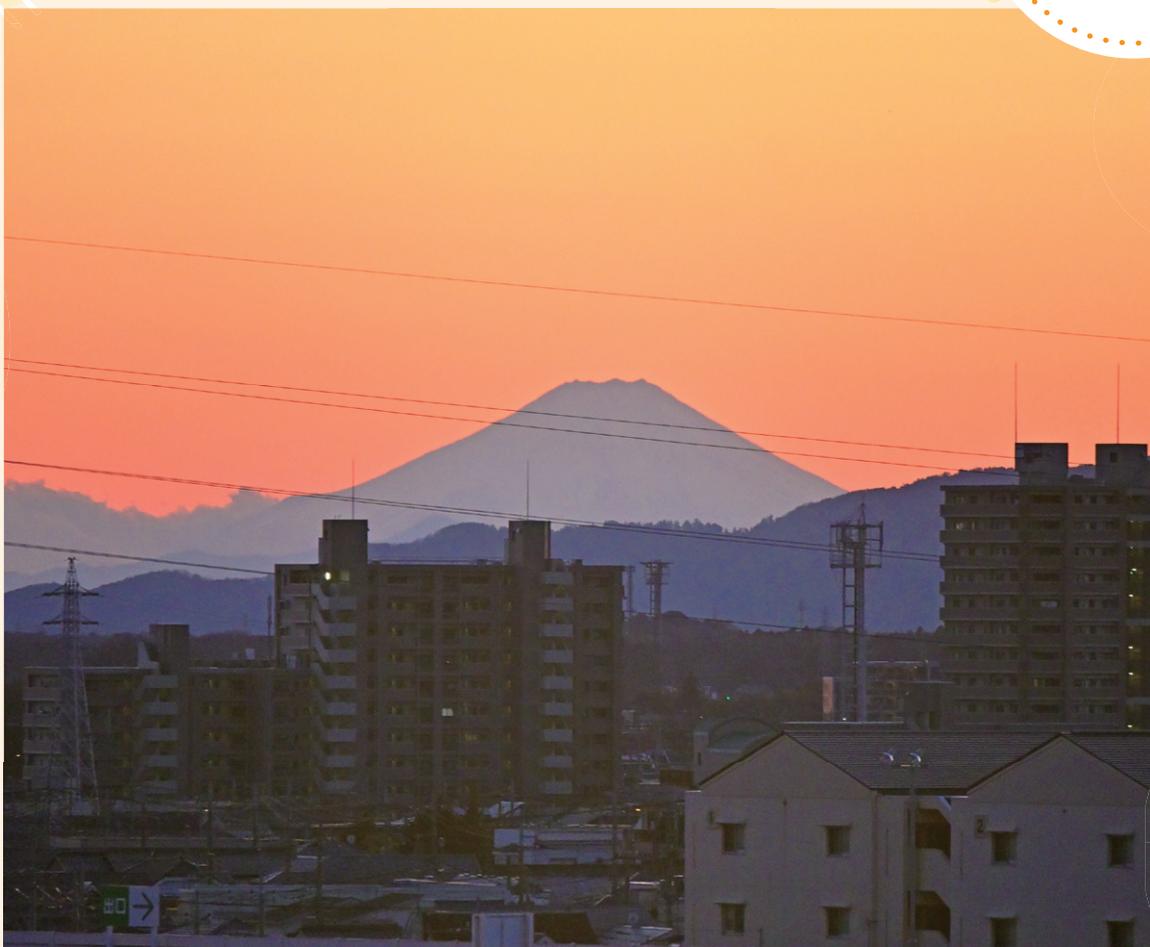


地方独立行政法人

栃木県立がんセンター

Tochigi Cancer Center

1 月号
2026



がんセンターだより

あいの こころ

Philosophy
Art
Humanity

- P.1 理事長ご挨拶
- P.2 胆のうの病気と、早期発見の大切さ
- P.3-4 がん検診特集
- P.5 がん予防・遺伝カウンセリングのご紹介
- P.6 逆紹介ってご存じですか？



とちまるくん © 栃木県

理事長ご挨拶

新年あけましておめでとうございます。令和8年の幕開けにあたり、県民の皆さまのご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

激動の第2期中期計画を振り返って

本年3月をもちまして、5年にわたる「第2期中期計画」が終了いたします。この5年間は当センターにとって、まさに激動の年月でありました。第1期終盤から続いた新型コロナウイルス感染症の影響により、診療制限を余儀なくされる局面もありましたが、「県民のために最先端かつ最良のがん医療を届ける」という使命を見失うことなく、職員一丸となって歩みを進めてまいりました。一方、社会情勢の変化に伴う人件費や薬剤・診療材料費の高騰は、病院経営に大きな課題を投げかけています。タスクフォースを中心に経営改善に取り組んでおりますが、依然として容易な状況ではありません。しかし、このような時代だからこそ、私たちは足を止めることなく、医療の質の向上と経営基盤の安定化を両立させていく覚悟です。



地方独立行政法人
栃木県立がんセンター
理事長兼センター長
尾澤 巖

進化するがん診療と研究体制

がん診療の現場は、いま劇的な変革期にあります。かつての手術中心の医療から、現在は「集学的治療」へとシフトしています。膵がんをはじめとする難治がんにおいても、術前化学療法の導入などにより治療成績の向上が期待されています。

また、患者さんの身体的負担を軽減する低侵襲治療の推進として、昨年度から手術支援ロボットを2台体制へと拡充しました。これにより、多くの消化器がんをはじめとする術式において、より精密で高度な手術を提供できる体制が整っています。

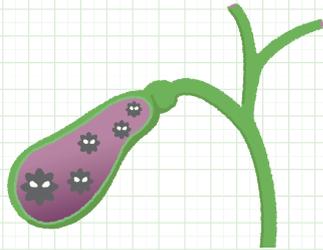
さらに、医師確保という重要な課題に対応するため、当センターをより魅力ある医療・研究環境とする取り組みを進めています。臨床現場の充実に加え、研究所の空きスペースを企業に開放する「リサーチパーク」を開始しました。外部のアカデミアや企業との共同研究を推進し、研究成果を臨床へとつなげる「トランスレーショナルリサーチ(橋渡し研究)」を展開することで、次世代のがん医療を栃木から発信してまいります。

未来へつなぐ「県立病院のあり方」

施設の老朽化への対応は、当センターにとって避けて通れない重要な課題です。昨年10月からは「県立病院あり方検討有識者会議」が開催され、県内の大学病院や公的医療機関の先生方から貴重な提言をいただいております。今年度内には整備の方向性が示される見込みであり、4月から始まる「第3期中期計画」において、い具体的な検討が本格化していく見通しです。あわせて、高齢のがん患者さんの増加といった社会ニーズの変化を踏まえ、栃木県がん診療連携協議会とも連携し、県内どこにいても効率的かつ質の高い医療が受けられる体制づくりをリードしてまいります。

結びに

本年も、役員・職員が一丸となり、県民の皆さまから最も信頼され、頼りにされる病院を目指して、全力を尽くす所存です。皆さまの温かいご支援とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



胆のうの病気と、 早期発見の大切さ

胆のうの病気には、胆のうに石ができる「胆のう結石症」や「胆のうポリープ」などの良性疾患のほか、「胆のうがん」に代表される悪性疾患があります。

胆のうがんは発見が難しく、進行すると治療が難しくなることもあるため、**できるだけ早い段階で見つけ、治療につなげることが大切です。**

胆のう結石や胆のうポリープは、健康診断や検査で比較的に見つかりやすい病気の一つです。右わき腹の痛みをきっかけに、胆のう結石が見つかることもあります。一方で、良性の胆のう結石症として手術を受けた方のうち、**およそ 100 人に 1~3 人の割合で、胆のうがんが見つかることがある**と報告されています。また、胆のうポリープは、**大きさが 10mm を超えると、がんの可能性が高まる**とされています。

当院では、胆のうがんの早期発見と予防に力を入れており、胆のう結石症や胆のうポリープと診断された方に対して、MRI や超音波内視鏡などを用いた精密検査を行い、胆のうの状態を詳しく調べることをおすすめしています。

また、良性疾患に対しては、体への負担が少ない**内視鏡外科手術**を行っています。薬剤を用いた「**蛍光胆管造影***」を併用することで、安全性の向上に努めています。さらに、早期の胆のうがんに対しても、経験を積んだ医師が、胆のう周囲のリンパ節評価を含めた内視鏡外科手術による治療を行っています。

「胆のうの病気」と言われたときこそ、しっかり調べることが、将来の安心につながります。気になる症状や検査結果がある方は、お気軽にご相談ください。

※**蛍光胆管造影**：手術の際に、**体内で安全に使われている蛍光薬**を使用し、胆管（胆汁の通り道）を光らせて位置を確認する方法です。胆管損傷のリスクを減らし、より安全な手術につなげます。

肝胆膵外科のページは
こちらから→



がん検診
特集

健康なあなただからこそ、 がん検診を考えてみませんか？



「がん検診を受けましょう」という呼びかけは、市区町村の広報誌や病院のポスター、テレビCMなど、あちこちで目にします。でも、正直こんなことを考えたことはありませんか？



- いったいどうやって受けるの？
- 症状がない自分でも大丈夫？
- 若い人でも受けられるの？年齢制限は？
- 費用はいくらかかるの？保険は効くの？
- 市区町村から届くハガキの検診と病院の検診は何が違うの？
- 予約は必要？どうやってすればいいの？

実は、この「小さな疑問」が、
一歩踏み出せない理由に
なっていることが多いのです。
ここでは、そんな疑問に
お答えします。

Q1. そもそも「がん検診」ってなに？

A1. 国では、「がん対策基本法」や「健康増進法」に基づき、がんの早期発見・早期治療を進めています。がん検診は、その一環として、自治体が厚生労働省の指針に沿って実施している、がんの早期発見を目的とした検診です。自覚症状のない方を対象に、がんが潜んでいないかを調べるもので、治療ではなく「がんがないかを確認する」ために行っている制度です。

Q2. 症状がなくても受けて大丈夫？

A2. もちろんです！むしろ、がん検診は「健康な今だからこそ」受ける検査です。自覚症状がない段階で見つけ、治療の選択肢を広げ、回復の可能性を高めることを目的としています。国では、子宮頸がんは20歳代から、肺がんは40歳以上の受診を推奨しています。

Q3. 普段の健康診断じゃダメなの？

A3. 健康診断は生活習慣病などを含めた体全体の健康状態を把握する検査です。一方、がん検診は「がんが潜んでいないか」を調べる、より特化した検査です。健康診断で異常がなくても、がん検診で初めて見つかることがあります。両方をうまく組み合わせることが健康維持に大切です。

Q4. がん検診にはどんな方法があるの？

A4. がん検診は大きく分けて③種類あります。

① 市区町村が行う「公費助成のがん検診」

お住まいの市区町村では、健康増進法に基づいて、がん検診を実施しています。ほとんどの市区町村は公費で検診費用を負担しており、自己負担は無料～数千円で受けることができます。多くの場合、対象の年齢の方にハガキで案内されます。国が推奨する項目や条件に沿って、各市区町村が地域の医療機関に委託して実施しています。

② 職域で受けられる「職域検診」

労働安全衛生法に基づき、事業者は従業員に義務として健康診断を実施しています。職場や加入する健康保険組合によっては、この健康診断とあわせてがん検診を受けられる場合があります。おつとめ先で健康診断の案内が届いた際は、がん検診が含まれているか、検査項目・対象年齢・受診間隔などを確認してみるとよいでしょう。

③ 病院が独自に行う「施設検診」

法的な義務はありませんが、病院によっては独自にそれぞれの医療資源を生かして、人間ドックなどの総合的・精密な健康チェックを行っています。公費助成の対象外ですが、年齢制限はなく、国の基準に沿った検査に加え、希望に応じて腫瘍マーカーやCT、内視鏡などの追加検査を受けられる場合があります。特にがん専門病院では、経験豊富な医師や専門資格を持つスタッフが対応するなど、がん専門病院ならではの体制が整っています。

Q5. どの検診がいいの？

A5. どの検診も、精度管理を通じて一定の質が保たれています。それぞれに特徴があるため、ご自身に合った方法を選ぶことが大切です。市区町村や健康保険組合が実施するがん検診は、公費による費用補助があり、自己負担が少ない場合が多いのが特徴です。毎年申込期日が定められていることが多いので、定期的に届く受診案内を確認してみましょう。一方、病院などで行う施設検診は比較的自己負担が大きくなりますが、CT や内視鏡などの専門設備を使った精密な検査を受けることができ、申込期日がなく予約をすればいつでも受診可能な施設が多くあります。検査内容や施設を自分で選べる点も利点です。いずれの検診も、自覚症状が出る前に受けることが大切です。

Q6. 費用はどのくらい？

A6. 健康保険が使えるのは、症状があり医師が必要と判断した場合の検査に限られます。自覚症状がない段階で受けるがん検診は、原則として保険適用外です。

- 市区町村の検診：無料～数千円程度(公費助成あり)
- 職域検診：勤務先や健康保険組合によって、自己負担が異なります
- 病院の検診：内容により数千円～数万円(自費診療)

Q7. 予約は必要なの？

A7. はい。どの方法でも予約をするのが一般的です。多くの場合、電話予約となっていることが多いようですが、インターネットから予約申込することも可能な場合があります。受診案内のハガキやホームページの内容に従って、予約してください。当センターでは直接窓口、対面での予約も受け付けています。

Q8. 健康診断で「要精密検査」と言われた場合も、がん検診でいいの？

A8. いいえ。がん検診は症状のない方が対象です。「要精密検査」と言われた場合は、検診ではなく外来を受診してください。当センターの外来も受診可能です。紹介状をご用意のうえ、予約センターへお電話ください。

Q9. 保険証は必要？

A9. 検診は自費診療のため、保険証は原則不要です。ただし、本人確認等のためにお持ちいただくとスムーズです。

Q10. 検査結果はいつ届くの？

A10. 当センターで受診した場合、結果は約 1 か月以内に郵送いたします。精密検査が必要な場合は、当センターからお電話でご連絡することがあります。

Q10. がん検診で本当にがんは見つかるの？ 精度は？

A10. がん検診は 100% 見つける検査ではありません。しかし、「早期発見の可能性を高める」ことが最大の目的です。検査の種類によって、見つけやすいがん・見つけにくいがんがあります。

- 胃がん(内視鏡)：早期発見率が高い
- 大腸がん(便潜血 + 内視鏡)：初期段階からの発見につながる
- 乳がん(マンモグラフィ)：一定の精度で早期発見が可能
- 肺がん(CT)：小さな病変も見つけやすい

がん検診にはメリットと注意点があります。がんで亡くなるリスクを減らすには、死亡を減らす効果が確実で、メリットが注意点を上回る検診を受けることが大切です。現在、国はこうした要件を満たすことが科学的に確認された検診の受診を推奨しています。

健康な今だからこそ、がん検診は「将来の安心」につながります。
案内ハガキや病院のウェブサイトで情報を確認し、
気になることは電話で相談してみてください。



がん検診に関する情報・ガイドラインは、厚生労働省の公式ページをご参照ください。



栃木県立がんセンターのがん検診についてはこちらをご覧ください。



がん予防・遺伝カウンセリングのご紹介

大腸骨盤外科、がん予防・遺伝カウンセリング科 科長(兼任)の宮倉安幸です。当センターでは、遺伝性のがんを専門に扱う「がん予防・遺伝カウンセリング外来」を開設しています。遺伝カウンセリング、遺伝学的検査、定期検査フォローを通じて、遺伝性疾患をもつ患者さんに寄り添った医療を目指しています。今回は、遺伝性大腸がんの代表的な「リンチ症候群」について、当科で行っている診療と受診方法をご紹介します。



遺伝性のがんとは？

がんは「遺伝子の病気」とも言われ、遺伝子に傷がつくことで生じます。多くのがんは、加齢や生活習慣などによって偶然に生じますが、生まれつき遺伝子に変化(変異)を持つことで、がんになりやすい体質の方もいます。これを「遺伝性のがん」と呼びます。

遺伝性のがんの特徴は？

- ①若くしてがんを発症する(一般の好発年齢よりも若い:若年発症)。
- ②同時に複数のがんを発症する。何度もがんを発症する。(多重がん、重複がん、両側性のがん)
- ③家族に特定のがんが発症する(家族集積性)。これらの特徴を有する方は遺伝性のがんの可能性があります。

代表的な遺伝性のがんは？

大腸がんや子宮体がんを好発する「リンチ症候群」、大腸にポリープが多発する(ポリポージス)「家族性大腸腺腫症」、乳がんや卵巣がんを好発する「遺伝性乳がん卵巣がん症候群」、甲状腺がんなどが好発する「多発性内分泌腫瘍」などさまざまな遺伝性のがんがあります。

リンチ症候群を知っていますか？

リンチ症候群は、アメリカのリンチ博士が報告した、大腸がんや子宮体がんなどの特定のがんが家系内で繰り返し発症する遺伝性腫瘍症候群の1つです。大腸がん患者さんのうち、約1~6%に関係するとされ、原因遺伝子はDNAミスマッチ修復遺伝子です。常染色体顕性(優性)遺伝形式を呈します。胃がん、卵巣がん、膵がん、小腸がん、尿路系のがんなども好発するため、生涯にわたる検査フォローが必要となります。

リンチ症候群の診断の手順は？

上述した遺伝性のがんの特徴を有し、特に大腸がん、子宮体がん、胃がん、卵巣がん、膵がん、小腸がん、尿路系のがん(これらを「リンチ症候群関連癌」と呼びます)をご本人やご家族に複数認めの方が疑われます。診断は以下の手順で行われます。

- ①既往歴や家族歴などの聴取を行いリンチ症候群が疑われるかスクリーニングを行います。
- ②血液検査のDNAミスマッチ修復遺伝子検査による確定診断を行います(自費診療になります)。
- ③遺伝子検査の結果の説明と今後の検査フォローの説明を行います。ただし、過去にリンチ症候群関連癌で手術や検査が行われていれば、保険診療で手術や検査時の組織検査からDNAミスマッチ修復遺伝子の異常を間接的に調べることが可能です。また、遺伝カウンセリングを通じて、患者さん一人一人のプライバシーに配慮し、遺伝に関するさまざまな情報提供を行い、心理的社会的支援を継続します。

ご自身がリンチ症候群と診断されたら

がん予防・遺伝カウンセリング科で、定期的な検査を提案・施行することで、病気を早期の段階で発見・治療します。

ご家族の方への支援

リンチ症候群と診断された方のご家族の方にも同様な遺伝学的検査や定期的な検査の提案・施行を行うことが可能です。

「がん予防・遺伝カウンセリング科」受診の具体的な方法は？

当院通院中の方

主治医に「がん予防・遺伝カウンセリング外来」への紹介予約を依頼すれば、受診することができます。

当院通院歴がない方

かかりつけ医からの紹介状をご用意のうえ、予約専用番号(028-628-5012)にお電話いただき「がん予防・遺伝カウンセリング外来」の予約を取得すれば受信可能です。紹介状がない場合も予約は可能ですが、別途、選定療養費が生じる場合があります。

当院通院歴はあるが現在通院していない方

紹介状の有無にかかわらず、上記番号にお電話いただき予約受診してください。ただし、紹介状がない場合は、別途、選定療養費が生じる可能性があります。

診察の費用はどうなりますか？

診察は適用範囲内であれば、保険診療で行われます。血液検査によるDNAミスマッチ修復遺伝子検査等は現在公的保険がカバーされていませんので自費診療になります。詳細は「がん予防・遺伝カウンセリング外来」へお問い合わせください。

“逆紹介”ってご存じですか？

がんの治療がひと段落したあと、通院の選択肢の一つとして「逆紹介」という仕組みがあります。

逆紹介って、どんな制度？

逆紹介とは、がん治療を専門とする医療機関での集中的な治療が落ち着いた患者さんについて、日常的な診察や定期的な検査を地域の医療機関で受けながら、必要なときには再び専門医療機関で診療を受ける、という連携の仕組みです。専門医療機関と地域の医療機関が役割を分担し、患者さんの経過を継続的にフォローしていきます。



なぜ、逆紹介という仕組みがあるの？

がんは、手術や抗がん剤治療などの専門的な治療が終わったあとも、再発の有無の確認や体調管理など、長期間にわたるフォローアップが必要になることがあります。一方で、専門医療機関は、高度で専門的な診療や、集中的な治療、精密検査を提供することを主な役割としています。そのため、日常的な診察や経過観察を得意とする地域の医療機関と連携し、長期的なフォローアップは地域の医療機関で通院していただく、という仕組みが取られています。このような役割分担により、患者さんにとっても無理のない通院につながります。

患者さんにとってのメリットは？

逆紹介を活用することで、

- 通院時間や移動の負担を軽減できる
- 体調の変化を、身近な医療機関で相談しやすくなる
- 必要な場合には、専門医療機関で速やかに精密検査や治療を受けられる

といったメリットがあります。



知っておいていただきたい点(注意点)

逆紹介を行うにあたっては、患者さんの病状や治療内容に応じて、通院先を検討する必要があります。がん治療後のフォローアップには、検査機器の有無や診療体制、医師の専門性などが関わるため、すべての医療機関で同じ内容の診療が行えるわけではありません。そのため、通院先については、患者さんの希望も伺いながら、専門医療機関と連携可能な地域の医療機関の中から、適した医療機関をご案内することになります。通院先の選択や手続きについては、医師や医療スタッフと相談しながら進めていきます。

それでも、逆紹介は 選択肢になりますか？

これらの点を踏まえても、通院の負担を抑えつつ、必要な専門医療を受け続けられるという点で、逆紹介は有効な選択肢の一つです。



まとめ

逆紹介は、治療を終わらせるための制度ではありません。治療後の生活を見据え、患者さんが安心して通院を続けるための医療の仕組みです。逆紹介を正しく理解し、通院の選択肢の一つとして活用していきましょう。



当センターへのお問い合わせ (代表) ☎ 028-658-5151

ご予約は以下の窓口までご連絡ください

予約センターのご案内

予約専用電話

☎ 028-658-5012

予約受付時間

🕒 平日 8:30 - 16:30

予約時にお聞きすること

① 診察券番号(受診歴がある方のみ) ② 受診科と医師名 ③ ご希望の日時

※当センターは、初診、再診ともに予約制となっています。予約センターにお電話のうえ、受診日をご予約ください。また、予約枠に制限があり、ご希望に添えない場合もあります。予めご了承ください。

～当日、患者さんにお持ちいただくもの～

- 保険証またはマイナンバーカード、各種医療証
- 診療情報提供書(紹介状)

- 各種検査結果、画像データ(お持ちの方のみ)
- お薬手帳(お持ちの方のみ)
- 当センターの診察券(お持ちの方のみ)

● 病診連携に関するお問い合わせ

地域連携チーム

☎ 028-611-5503

平日 ☎ 8:30 から 17:15

● がんに関するご相談

患者総合支援センター・
がん相談支援センター

☎ 028-658-6484

平日 ☎ 8:30 から 17:00

● がんの遺伝カウンセリングや、ゲノム医療に関する予約やお問い合わせ

ゲノムセンター

☎ 028-611-5480

平日 ☎ 8:30 から 17:00

外来受付のご案内

外来診療日程表は随時更新しております。最新の情報は公式ホームページをご覧ください。



セカンドオピニオン外来のご案内は、こちらからご覧ください。



予約センター | ☎ 028-658-5012(直通) 受付時間 平日 ☎ 8:30 から 16:30

当センターは
紹介受診重点医療機関
に指定されています

他の医療機関からの診療情報提供書(紹介状)を持たずに外来受診する場合「特別の料金(選定療養費)」がかかります。

初診 7,700円

※緊急、その他やむを得ない事情がある場合には、「特別の料金」を徴収しないことがあります。

交通のご案内

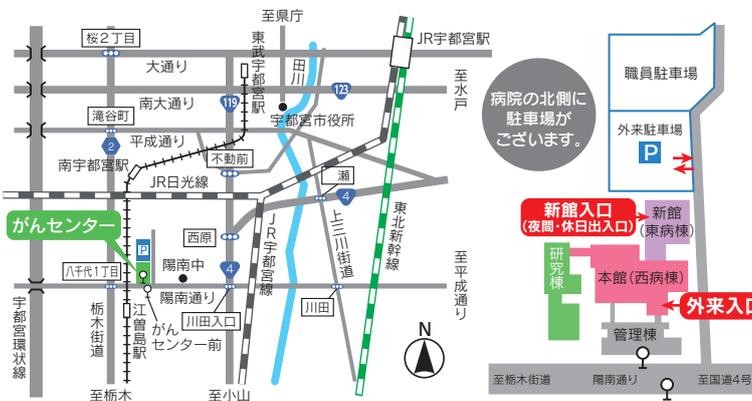
電車・バス

● JR宇都宮線「宇都宮駅」より
→西口から関東バス「江曾島行(11番のりば)」に乗り、「がんセンター前」で下車。横断歩道を渡る。徒歩1分。(乗車時間約25分)

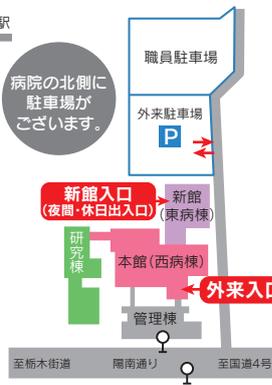
● 東武宇都宮線「江曾島駅」より
→東口から関東バス「JR宇都宮駅行」に乗り、「がんセンター前」で下車。徒歩1分。(乗車時間約5分)

自動車

● 東北自動車道「鹿沼I.C.」より
→東北自動車道「鹿沼I.C.」より宇都宮方面へ。「滝谷町」交差点を右折南進し、JR陸橋を越え3つ目の信号「八千代1丁目」を左折。(約9.4km)
→東北自動車道「鹿沼I.C.」より宇都宮方面へ。「宮環鶴田陸橋」を右折。「下砥上町」アンダーに入ってすぐ江曾島方向へ左折し7つ目の信号を左折。(約8.2km)



病院の北側に
駐車場が
ございます。



あいの
Philosophy
And
Humanity
このころ vol. 39

1月号
2026年
1月26日発行

発行 地方独立行政法人栃木県立がんセンター 広報広聴センター
〒320-0834 栃木県宇都宮市陽南4-9-13
TEL. 028-658-5151(代) FAX. 028-658-5669



がんセンターの情報は 栃木県 がん 検索 URL <https://www.tochigi-cc.jp>